

平成21年度事業報告書

(1) 事業の経過及び成果

当社は、平成8年4月の開業以来、地域に密着し地域と共に歩む鉄道として、お客様に信頼され、活力と魅力ある鉄道となるために、安全・正確・快適な輸送サービスを基本として健全経営の確立に努めてまいりました。

安全性向上については、運転保安設備の近代化の柱である運行管理システムの更新が完了し、新運輸指令所の運用を開始いたしました。

また、高架橋橋脚の耐震調査及び補強工事に着手し、施設の安全性向上を積極的に進めるとともに、安全統括管理者を責任者とする安全監査（内部監査）を行い、安全管理体制の確保に努めました。

さらに、鉄道運行業務における基本動作の励行を徹底するとともに、安全教育による現業従事員の安全意識の向上にも努めました。

この結果、平成21年度も開業以来の運転無事故記録を継続することができました。

次に輸送サービスの向上等については、設備面の対応として、駅の移動円滑化推進に向けて国及び船橋市、八千代市からの補助金を受け、東葉勝田台駅と飯山満駅のエレベーター設置工事を進めております。

また、営業面においては、平成20年度から発売している「東葉東京メトロパス」の販促キャンペーンを実施するとともに、駅前大型ショッピングセンターと提携した「お買物往復きっぷ」を発売するなど、定期外旅客の確保・拡大を図りました。

このほか、沿線地域との交流を目的とした地元の中高校生の協力による手作りのイベントとして「東葉サマーコンサート」を実施するとともに、八千代市レクリエーション協会や京成バラ園と連携した「ふなばし・やちよスタンプラリーウォーク」、さらには地元自治会の参加協力を得て8年ぶりの車両基地の開放イベントとして「東葉の日・家族車両基地まつり」を実施し、「地域に密着した鉄道」という企業イメージの定着に積極的に取り組みました。

関連事業については、店舗、駐車場貸付や各種広告収入の確保に努めました。

このような各種の取り組みにもかかわらず、景気の低迷等の影響により、平成21年度の年間輸送人員については4,764万8千人（前年度比0.9%減）となり、1日あたりの平均輸送人員が13万2千人となりました。また、運輸収入は、143億6千6百万円（前年度比1.8%減）となり、5年ぶりに前年度の実績を下回ることとなりました。

また、関連事業から得られる運輸雑収については、経済情勢の悪化に伴い、7億1千2百万円（前年度比2.0%減）となりました。

一方、営業費用面では、第三次経営改善計画を中心とした経営改善に努め、常に費用対効果を勘案しながら経費の節減に努めた結果、営業利益が47億2千1百万円（前年度比4.2%増）となり、8期連続で40億円台を確保することができました。

しかしながら、鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が46億2百万円と多額にのぼったため、経常損失として3千8百万円（前年度比88.8%改善）、当期純損失として4千3百万円（前年度比86.6%改善）を計上するのやむなきに至りました。

(2) 対処すべき課題

鉄道事業者として最大の課題は安全の確保であり、平成18年度に制定した安全管理規程に基づき、今後も輸送の安全を確保するため、安全対策を確実に実施してまいります。

一方、平成21年度は開業以来初めて営業利益が支払利息を上回ったものの、依然として多額の支払利息が重荷であることに変わりはなく、経常収支上の大きな課題となっております。

このため、第2次経営支援策において、平成19年度から平成28年度の10年間を「集中支援期間」と位置づけ、支援関係者と当社で構成する「東葉高速自立支援委員会」を設置し、当社の自立を目標として、支援関係者と一体となった取り組みを行っております。

当社は、平成19年度からの3か年計画となる第三次経営改善計画を策定し、これまで増収対策や繰上償還等による財務体質の改善を図ってまいりましたが、関係各位の御支援の結果、ほぼ本改善計画の目標値を達成することができました。この計画が平成21年度で終了することから、新たに平成22年度からの3か年計画として第四次経営改善計画を策定し、「安全・自立・共生」の方針の下、引き続き経営改善に努めてまいります。

さらに、平成20年度からは、千葉県、船橋市及び八千代市のご尽力により設置していただいた「東葉高速鉄道活性化協議会」に参画し、需要の拡大や沿線の活性化を図るべく、県及び両市の主導の下、国の認定を受け、旅客増等の当社の活性化につながる諸事業を推進しております。

今後も、千葉県、船橋市、八千代市及び東京地下鉄株式会社に追加出資などの資金支援をしていただくとともに、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構には、建設資金の償還期間の大幅な延長を引き続き実施していただくこととなっております。

このような多大な経営支援を賜りました関係各位に対しまして、深甚なる謝意を表すものであります。

株主の皆様におかれましても、これまでと同様に、当社の置かれております現状について、ご理解、ご高配を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。